

7 その他全般的事項

<工学部 ロボット理工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①授業形態 ・「実験・実習」科目 該当科目：ロボット製図、加工実習、ゼミナールA、ゼミナールB、ゼミナールC ・「演習科目」 該当科目：材料科学、加工学、ロボットアナトミー	①授業形態の変更 ・主たる授業形態を「演習」科目と、実験・実習を取り入れた授業方法に変更する。 該当科目：ロボット製図、加工実習、ゼミナールA、ゼミナールB、ゼミナールC ・主たる授業形態を「講義」科目と、実習を取り入れた授業方法に変更する。 該当科目：材料科学、加工学、ロボットアナトミー
②卒業要件及び履修方法 ・全学共通教育科目 24単位以上 ・学部教育科目 84単位以上 内訳 学部共通教育科目 10単位以上 学科専門教育科目 68単位以上 ・学生が自由に選択する科目 16単位以上 (卒業要件：総単位数 124単位以上)	②履修方法の変更 ・全学共通教育科目 24単位以上 ・学部教育科目 84単位以上 内訳 学部共通教育科目 16単位以上(変更) 学科専門教育科目 68単位以上 ・学生が自由に選択する科目 16単位以上 (卒業要件：総単位数 124単位以上)

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・中部大学FD委員会を設置している。 ・同委員会の下に、FD活動WG、FD活動評価点検委員会を置いている。 ・学長の下に、教育活動顕彰審査選考委員会を置いている。 ・委員会規程は別添のとおり。(中部大学FD委員会規程、中部大学FD活動評価点検委員会規定、中部大学教育活動顕彰規定、中部大学教育活動顕彰審査選考委員会規定) b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) ・FD委員会：開催回数3回、委員26人(委員長は学長)、参加人数第1回24人、第2回22人、第3回22人 ・FD活動WG：開催回数6回、委員11人(WG長は大学教育センター長)、参加人数第1回9人、第2回9人、第3回7人、第4回8人、第5回8人、第6回11人 ・FD活動評価点検委員会：開催回数3回、委員8人(委員長は大学教育センター長)、参加人数第1回6人、第2回6人、第3回6人 ・教育活動顕彰審査選考委員会：開催回数2回、委員17人(委員長は副学長)、参加人数第1回17人、第2回17人 c 委員会の審議事項等 ・FD委員会 ①FD活動の在り方に関する事項 ②FD活動の実務に関する事項 ③教育職員の顕彰に関する事項 ④教育職員の資質開発を図るための組織的な研修に関する事項 ⑤その他FDに関し必要な事項 ・FD活動評価点検委員会 FD活動全般及び教育活動顕彰制度に係る事項の評価点検に関すること。
--

- ・教育活動顕彰審査選考委員会
顕彰制度による表彰対象者の審査及び選考に関すること。

② 実施状況

a 実施内容

- ・新任教員説明会
- ・教育活動重点目標・自己評価シートの設定
- ・FDフォーラム
- ・FD講演会
- ・学生による授業評価
- ・教員による授業自己評価
- ・授業改善アンケート
- ・CUMOC（キューモ：Chubu University Mobile Clicker）システムの提供
- ・授業改善ビデオ撮影支援
- ・授業のオープン化制度（全学公開授業、授業サロンの開催を含む。）
- ・教育活動顕彰制度
- ・FD活動評価点検
- ・教員キャリアアッププログラム
- ・FDカフェ
- ・FD活動支援経費の補助
- ・学部・研究科FD委員会・学科単位のFD研究会

b 実施方法

- ・**新任教員説明会**
FD活動全般及び教育活動顕彰制度について、採用日の辞令交付後に実施。
- ・**教育活動重点目標・自己評価シートの設定**
専任教員全てが、各学部が定めた教育活動、学務活動等に関する項目について重点目標を定め、学部長、学長に提出し、年度末に自己評価を行い、その結果を学部長、学長に提出。
- ・**FDフォーラム、FD講演会**
FD委員会が企画し、大学教育等の改革、改善、資質向上の推進を図るため、学内外の講師により全教職員に案内して実施。
- ・**学生による授業評価**
各学期末（年2回）に、学生の全履修科目について、Webを利用して実施する。その結果及び担当教員のコメントをWeb上で、全学生及び教職員が閲覧できるようにしている。
- ・**教員による授業自己評価**
各学期末に、教員が担当する授業科目について、基本項目、授業目的、熱意態度、授業方法、授業運営、内容理解、総合評価、学生に対する認識等の設問項目により実施する。
- ・**授業改善アンケート**
授業担当教員が該当科目の開講期間中に、受講生と担当教員のための双方向コミュニケーションツールとして、Web上で学生の意見を聴き、反映することができるシステムを提供するもの。
- ・**CUMOC（キューモ）**
「授業改善アンケート」システムにおいて、受講生が携帯電話、パソコンを利用して回答するクlicker機能のことをいい、授業中に教員が作成したアンケートに対し、受講生からの回答をリアルタイムに集めて、その結果を教員と受講生と一緒にしながら授業を進める双方向対話型の授業を構築していくためのツールを提供。
- ・**授業改善ビデオ撮影支援**
大学教育研究センターがメディア教育センターと協力して、講義室に出張撮影し、撮影した映像をDVDなどに記録して教員に提供している。
- ・**授業のオープン化制度**
他の教員の授業を参観して更なる授業改善への模索を行う。
- ・**全学公開授業**
授業担当者が授業を公開することで、自分の授業の課題を明確にし、抱えている問題や悩みに関するアドバイスを
を得る場としている。
- ・**授業サロン**
異なる分野、文理の壁を越えた教員（5人程度）が、互いの授業見学を行い、授業の考え方、工夫、改善等について情報・意見交換を通じて、授業改善のヒントを見出す。
- ・**教育活動顕彰制度**
教員の教育活動に係る業績、学生による授業評価、学内行政（学務活動）・社会貢献に係る業績などを評価項目とし、教育活動全般を総合的に評価して、特に優れた活動をした者に対する教育活動優秀賞及び特筆すべき教育活動実績を挙げた者に対する教育活動特別賞の2種類の表彰を行う。

- ・FD活動点検評価
全学。学部等で実施したFD活動の目標、取り組み、課題等について、評価・点検を行い、学内外に公表する。
- ・教員キャリアアッププログラム
授業技術、授業技術・運営、授業デザイン等について学内外の講師により、大学教員に求められるこれらのスキルアップを図るプログラムの実施。
- ・FDカフェ
大学教育に関する様々なテーマ等について、教職員が自由に意見を交わすことで情報やスキルを共有する場の提供。
- ・FD活動支援経費の補助
教員間におけるFD活動を奨励、支援し、教育活動を一層充実させるために、学科、教室等のFD活動に対し、その計費の一部を補助する。
- ・学部・研究科FD委員会
学部・研究科の現場における実行組織

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FDフォーラム・FD講演会：開催回数3回、第1回80人、第2回39人、第3回42人
- ・授業サロン：開催回数3回、第1回5人、第2回5人、第3回5人
- ・全学公開授業：開催回数6回、第1回9人、第2回7人、第3回11人、第4回8人、第5回8人、第6回12人
- ・教員キャリアアッププログラム：開催回数8回、第1回11人、第2回10人、第3回9人、第4回36人、第5回4人、第6回4人、第7回7人、第8回12人
- ・FDカフェ：開催回数5回、第1回12人、第2回12人、第3回14人、第4回14人、第5回12人
- ・学科単位のFD研究会等（大学が活動を経費を補助したもの）：開催回数4回
 - ①工学部電気システム工学科（11人）、建築学科（13人）、応用化学科（9人）、都市建設工学科（32人）、電子情報工学科（28人）、の各研究会及びFD講演会
 - ②国際関係学部国際関係学科（1人）、国際文化学科（4人）、中国語中国関係学科（4人）の各研究会
 - ③人文学部コミュニケーション学科研究会（1人）
 - ④生命健康科学部臨床工学科研究会（12人）

※大学・研究科FD委員会は、活動目標、取り組み状況、課題と今後の取り組みを掲げて常時活動している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

本学では、全学的な組織として「FD委員会」を置き、その下に「FD活動WG」及び「FD活動評価点検委員会」を置いており、この委員会を中心として、上記の活動内容の結果を踏まえつつ、より個性的で多様化した授業改善・教育活動の「向上を図るべく、積極的にFD活動に取り組んでいる。

一方、中部大学教育活動顕彰制度により、FD活動、自己評価等を踏まえた教育活動において、優れた功績を挙げた教育職員、教育組織を顕彰している。

また、毎年、「教育・研究活動に関する実態資料（1年間に行った教育、研究、社会貢献、大学運営に関する活動の基礎的なデータ集）」及び「中部大学教育研究（新時代の大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供し、教育改善・資的向上に役立てる学内雑誌）」を教職員に配布し、PDCAサイクルの自己点検評価等の基礎的資料としての活用を求めている。

さらに、本学では、平成20年（2008）度からFD活動についての点検評価を実施し、「中部大学2014年度FD活動評価点検報告書」として、ホームページで公表している。

なお、学部・研究科FD委員会では、常時活動を続け、教育プログラムの変更、授業内容の変更等まで踏み込んで、魅力ある授業づくりに取り組んでいる。

平成25年度から、「学生の主体的な学び」に向けての状況や、「学生の学修成果」に関する状況を。既存の調査とは別に把握し、組織として教育内容を検討する資料とするために、「学修成果に関する調査（試行）」を実施している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業改善アンケート・CUMOCシステム稼働：春学期 平成26年4月～9月、秋学期 平成26年9月～平成27年3月
- ・「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」：平成26年7～8月、平成27年2～3月
- ・「学生による授業評価」の結果に対する教員のコメント入力：平成26年8～9月、平成27年2～3月
- ・「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」の結果公開：平成26年9月～、平成27年3月～

b 教員や学生への公開状況、方法等

上記のことについては、Web入力方式により、全学生、全教職員に公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

工学部ロボット理工学科は、平成26年度に設置したところであり、その設置の趣旨・目的・教育目標等を着実に実行するため、全学一体となって更なる魅力ある授業づくり、学生による授業評価等を実施し、教育研究水準の向上、教育の質の向上に努めている。

学生定員80人に対し、開設年度に80人、平成27年度に93人の入学者を受け入れて、理学的素養とロボット領域における知識・能力・技術を見つけたロボット共存社会を支えるグローバルな技術者の養成に邁進し、学生を輩出する際には、社会の高い評価が得られるように努めている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表時期

・平成25年7月 公表

b 公表方法

「中部大学自己点検評価報告書（平成24年度）及び「自己点検・評価報告書（要旨）」を刊行し、生命健康科学研究科生命医科学専攻（修士課程）の特色と現状、点検・評価、改善・改革に向けた方策を公表している。報告書は学内の各部署に配布し、学生及び教職員が閲覧できるようにしている。また、要旨は全教職員に配布している。

図書館にもこれらの資料を配し、学内外の者が閲覧できるようにしているとともに、ホームページにも公開している。

③ 認証評価を受ける計画

・「(財)日本高等教育評価機構」の評価を受け、平成27年3月に大学評価基準に適合していると認定されている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成27年7月 実施)